

# 柿生文化

平成21年10月23日  
川崎市立柿生中学校  
郷土史料館情報・研究誌  
第16号

## 柿生「鉄」の系譜Ⅱ

### —— 砂鉄の謎と県内の砂鉄産地 ——

校長 板倉 敏郎

前回の「柿生文化」では柿生周辺の鉄の文化について、鶴見川流域のタタラ遺跡や地名、鶴見川で採集された砂鉄などについてご紹介しました。

今回は、地域の方より「柿生に本当に砂鉄なんか採れるのですか？」というご質問がありましたので、その辺から考えていきたいと思えます。

砂鉄は、「磁鉄鉱」の一種です。この鉱物は、色々な岩石のなかに含まれています。例えば墓石によく使われている花崗岩や安山岩などにも1～2%ほど含まれています。花崗岩というと長石・石英・雲母の3種類の鉱物が集まってできた岩石といわれていますが、僅かですが磁鉄鉱も含まれています。他の岩石にも同じことがいえます。

ですから、日本中の川には多かれ少なかれ砂鉄が採取されるものと思ってください。先日、砂鉄を採取した鶴見川と麻生川の合流地点でも多くの砂鉄が採取されました。これは上流に磁鉄鉱の大きな塊があるのではなく、磁鉄鉱を多く含む岩石が砕けたものか鉄分の多い砂礫層からでたものでしょう。

神奈川県内では、鎌倉の極楽寺川が注ぐ七里ヶ浜一带にはたくさんの砂鉄が見られ稲村ヶ崎には砂鉄採取場があったそうです。この辺は、名刀政宗を生んだ相州鍛冶に原料を供給してきたことでも有名です。この辺ではタタラの遺跡がまだ発見されていないようですが極楽寺川にかかる針磨橋(はりまほ)の由来となる針磨(針金を磨いて鉄する)を仕事にしていた人がいたことを考えるとタタラは近くにあったのではないかと考えられます。



(タタラの炉を築く作業)

タタラといいますが砂鉄だけではなく大切な燃料である「炭(すみ)」が重要な要素となります。柿生周辺に鉄やタタラに関する遺跡や地名が多いというのと柿生が炭の大産地であったということが何か関係があるかもしれません。タタラに必要な炭は砂鉄と同重量の炭が必要となってきます。「砂鉄七里に炭三里」という言葉がありますが、炭はかさばるため運送が大変で遠くから運び込むことに苦勞します。もしかしたら柿生の炭生産の始まりは、タタラの関係かもしれません。



(亀井橋を遠くに見る 左が鶴見川、右が麻生川)

シリーズ 「麻生のルーツを探る」 第15話

岡上 「阿部原」 廃寺跡

昭和25～6年頃だったと思います。岡上の友人梶正雄さんが畑を掘っていたところ珍しい土器を発見しました。そこは通称「岡上の阿部原」と呼ぶ縄文時代からの遺跡で、土器に興味を持つ梶さんはそのことを当局に伝えました。識者が調べてみると、それは天平年間(750年)前後の瓦類で、鬼瓦や「荏」「国」とも読める文字瓦が採



岡上阿部原

集され、その後昭和40年発掘調査(小規模)の結果、多量の四葉蓮華文の鏡瓦(軒先丸瓦)や「岡」と墨書された土師器の坏、陶硯などが発見され、野川の影向寺(川崎一の古刹)と並ぶ岡上廃寺として当時大きな話題となりました。

古代、鶴見川中流に起こった古墳文化(稲荷前遺跡)は鶴見川を遡ります。三輪、岡上には円墳などの高塚古墳は全く姿を見せませんが、その特徴は刀剣など副葬品を持つ多くの横穴古墳があることで、このことは稲作技術が進み、谷戸田が開発され、地方支配の武力を持った有力農民が存在していたことを物語っています。この地方の横

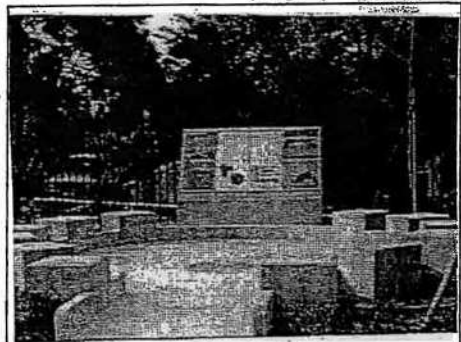
穴古墳は、岡上の川井戸、杉山下、三輪の白坂、王井谷穴に見られ、能ヶ谷のカゴ山古墳を含め、これらの氏族は連合してこの地方文化を作っていたと思われます。

横穴古墳の築造は仏教文化の影響もあって8世紀(700年代)には終焉を迎えます。その頃、奈良、平安時代の岡上を代表する丸山遺跡の住居址は90戸(重積)を数え、前稿に述べた文化を持っていました。聖武天皇の国分寺令は741年で仏教信仰は一般農民にまで浸透していきます。岡上廃寺はこれら丸山遺跡等のムラの人たちで建てた「私寺」ではなかったでしょうか。

このことを町田市史は、「岡上廃寺址の地形は南に丘陵を背い北に舌状に延びる台地で鶴見川が灌漑する水田に面し立地している。とすれば、このお堂の建立者は鶴見川地区に本拠を置く土豪ではなかったか」と述べています。(岡上は当時多摩郡と思われる)

残念なことに、昭和40年の学術調査は試堀程度の発掘で全容を掴むには至らず、多量の瓦の存在は瓦窯跡では?の声もあったようです。ところが昭和56年に阿部原から400メートルほど離れた三輪緑山の開発で8世紀後半の窯跡が発見され、ここで生産された瓦が岡上廃寺に供給されていることがほぼ分かりました。現在、その窯跡は町田市が史蹟公園として保存公開しています。岡上廃寺跡は、町田市内にもこれ程の寺院遺跡はなく早い全容解明が望まれています。

文、小島一也氏



丸山遺跡(岡上小学校遺跡広場)

# 郷土史料館設立委員研修会開催 於：市民 ミュージアム

—— 「川崎・縄文一万年展」視察 ——  
—— 続々登場する柿生・岡上の遺物 ——

9月30日本校の郷土史料館設立委員会は郷土史料館の施設見学と市民ミュージアムで開催された「川崎・縄文一万年展」の視察を兼ねて中原区にある川崎市民ミュージアムを訪問しました。

展示物の多くが柿生・岡上出土であり、我が郷土の歴史がいかに古く学術的にも高く評価されているかを実感できる一時でした。



(学委員の浜田晋介氏より説明を受ける委員のメンバー)

## 第16回 カルチャーセミナー開催のご案内

- 1、期 日 平成21年11月26日(木) 午後6時より
- 2、会 場 柿生中学校 2階 視聴覚室
- 3、講 師 松崎 稔 氏 (町田市自由民権資料館職員)
- 4、テマ 「町田の自由民権運動と柿生」

## 第17回 カルチャーセミナー開催のご案内

- 1、期 日 平成21年12月4日(金) 午後5時30分より
- 2、会 場 柿生中学校 2階 視聴覚室
- 3、講 師 増淵 和夫 氏 (幸図書館勤務)
- 4、テマ 「柿生・岡上の古代遺跡と自然環境～地質・気候より探る～」

### 郷土史講座紹介

- ◎主催 川崎市文化財団
- ◎期 日 平成21年11月21日 10:00開始 9:30受付
- ◎集 合 麻生区岡上公会堂
- ◎テマ 「川崎歴史ガイド特別見学会～岡上地区をめぐる～」(見学会)
- ◎見学地 東光院・梶邸板碑・岡上神社・岡上廃寺跡・丸山遺跡・三浦遺跡
- ◎参加費 1500円
- ◎申し込み 往復はがきで住所・氏名・年令・電話番号を明記し下記に申込み  
・川崎市川崎区駅前本町12-1 タワーリパーク3階  
川崎市文化財団「川崎歴史ガイド特別見学会」係



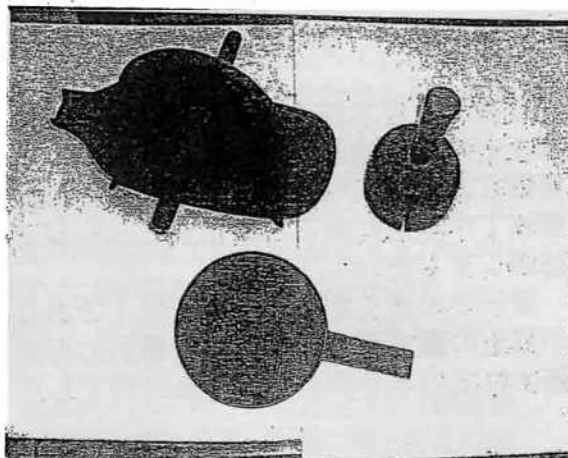
## 着々と進む郷土史料館の史料収集活動

現在、郷土史料館設立委員会のメンバー17名が史料の寄贈および寄託のお願いに皆様のお宅にうかがったり。各町会にお願いしてチラシを配布したり回覧板を回す等の活動をしています。

早速、地域の皆様方よりお問い合わせの電話や寄贈のご連絡が入っております。

すでに、生活古民具等の寄贈も多数あり、来年度5月の新校舎完成を待遠しく感じております。

なにとぞ、今後ともご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



(宗像峻龍氏より寄贈→ 左上:薬研 右上:きねた 下:鏡)

### 郷土史料館「史料」の寄贈・寄託のお願い

22年に完成する本校の「郷土史料館」に収蔵する柿生・岡上に関する歴史的資料を探しています。ご自宅で保存されている史料(古文書や生活道具類)でお譲りいただけるものや、一時、お貸しいただけるものがございましたらお知らせください。しっかりとした管理体制で収蔵します。よろしく願いいたします。

#### ◎処分しようとしている

生活古民具や古文書をお譲り下さい

#### このような史料はありませんか

- ◎古代の「縄文土器・弥生土器」「石器」「土師器」「須恵器」
- ◎江戸時代の「検地帳」・「水帳」・「五人組帳」・地域の「絵地図」
- ◎江戸時代の「高札」(慶応4年の太政官布告「五榜の掲示」など)
- ◎江戸時代の寺子屋や私塾で使用した教科書・手本「各種往来物」
- ◎江戸時代の「藩札」「通行手形」
- ◎明治期発行の「地券」 ◎明治期の「自由民権運動」史料
- ◎明治・大正・昭和(戦前・戦中)の「国定教科書」
- ◎小型の農具「千歯こき」「備中鍬」「からさお」
- ◎各時代の「古銭」「生活古民具」(矢立て・印籠・火打ち・鏡・装束など)
- ◎その他各種史料「各種古文書類」「美術品」

寄贈・寄託していただける史料がありましたらご 報ください。

柿生中学校 044-988-0004 黒川まで

町内会・自治会を通してお願い文を配布したり、柿生郷土史料館設立準備委員が直接、地域をまわり、お願いにあがります。ご協力お願い致します。